

【取材のご案内】

SPAC 秋→春のシーズン 2024-2025 #2

『象』

被爆者の心情を通して戦争の悲惨さを描いた別役実の歴史的傑作。
若き演出家 EMMA（エマ）が、現代に響く普遍的な物語として描き出す。

報道関係者各位

平素より、SPAC-静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、「SPAC 秋→春のシーズン 2024-2025」の2作品目として、別役実作『象』を12月に静岡芸術劇場にて上演します。

本作は、日本の不条理劇の礎を築いた別役実が、1962年に鈴木忠志（SPAC初代芸術総監督）らとともに結成した劇団・新自由舞台（後のSCOT）の旗揚げ公演のために書き下ろしました。原爆によって背中にケロイドを負い入院中の「病人」のもとに「甥」が見舞いにやってきます。老いてもなお若かりし日のように背中のケロイドをさらけ出し情熱的に生きたいと願う病人に対し、甥は、被爆者である自分たちは静かに生きるべきだと説得をします。

二人の会話のすれ違い・生き方の違いから、戦争が人間にもたらした悲惨さ、憎悪、葛藤を浮かび上がらせ、「被爆者」が強いられた閉塞状況を炙り出すと同時に、その特異性を超えて、人間社会における不条理、不安や空虚、孤独といった現代人が持つ普遍的な感覚が緻密かつ色濃く描かれています。

本作は、次代を担う舞台芸術家の作品発表の場である「桃太郎の会*」企画の参加作品であり、SPAC芸術総監督・宮城聡は作品創作の担い手として、演劇と社会の関わりを追求し日本各地の歴史に寄り添うプロジェクトを展開してきたEMMAを選出しました。原爆・被爆の記憶が風化し、核増強が進められる今だからこそ、戦争の実体験をもたない世代としてそれに向き合い、人間の在り方を探りたいと考え、日々稽古場で模索しています。『象』で描かれる被爆者に対する社会の視線の変化は、社会に対する無関心が強まり、人と距離を置きがちな現代社会を照射します。8月の戦争について意識が高まるこの期間に、静岡でも戦争を題材にした舞台を創作していることをぜひ皆様に知っていただきたく、ご案内させていただきます。

12月の静岡公演に先立ち、9月富山県利賀芸術公園にて開催される「SCOT・サマーシーズン2024」での上演に向け、7月6日より静岡県舞台芸術公園での稽古を開始しています。ご多忙の折大変恐縮ですが、ぜひクリエーションの過程もご取材いただきたく、稽古日程をご案内申し上げます。

今後見学可能な第一期稽古日程▶

2024年7月27日（土）、28日（日）、29日（月）、30日（火）、31日（水）

8月11日（日）、12日（月・休）、13日（火）、15日（木）、16日（金）

日 時▶ 13:00～18:00（日により変更の場合がございます。お問い合わせください）

会 場▶ 静岡県舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」（住所：静岡市駿河区平沢100-1）

※第二期稽古は11月28日（木）より再開

*桃太郎の会：鈴木忠志（富山県南砺市）、宮城聡（静岡県静岡市）、平田オリザ（兵庫県豊岡市）、中島諒人（鳥取県鳥取市）が、2022年に設立した次世代の日本の演劇人と共同で作品を創造する会。「SCOT・サマーシーズン」では、「桃太郎の会」参加作品を含め、計9作品が上演される。

お問い合わせ：SPAC - 静岡県舞台芸術センター

広報担当 佐藤 美咲

TEL：054-208-4008（舞台芸術公園）FAX：054-203-5732 / E-mail：koho@spac.or.jp

■公演概要

『象』

演出：EMMA（旧・豊永純子） 作：別役実

出演：阿部一徳、小長谷勝彦、榊原有美、牧山祐大、吉植荘一郎、渡辺敬彦 [五十音順]

〈利賀公演〉

SCOT サマー・シーズン 2024

9月7日（土）12:00 開演

9月8日（日）14:00 開演

会場：富山県利賀芸術公園 創造交流館

〈静岡公演〉

SPAC 秋→春のシーズン 2024-2025 #2

12月7日（土）18:30 開演

8日（日）・14日（土）・15日（日）

各日 14:00 開演

会場：静岡芸術劇場

静岡公演チケット発売日・・・10月13日（日）一般前売り開始

＜静岡の戦跡を巡る街歩きツアー＞ 詳細・・・8月中旬発表予定

静岡公演の関連企画として、静岡平和資料センター協力のもと、街歩きツアーを企画中です。

対象公演日：12月14日（土）、15日（日）10:10～12:15（予定）

ツアー箇所：駿府城公園（歩兵第三十四聯隊址碑）、静岡銀行（爆弾投下の中心地）などを予定

委託：令和6年度日本博2.0事業（委託型）

主催：公益財団法人利賀文化会議、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

共催：公益財団法人静岡県舞台芸術センター

■演出家プロフィール

EMMA（旧・豊永純子）（エマ／とよなが・じゅんこ）



1988年神戸市生まれ。演出家。瀬戸内国際芸術祭にて、小豆島の農村歌舞伎保存会や地域の方々と共に創作するなど、特有の文化や歴史をリサーチし、その地域に寄りそいながら制作することを大切にしている。演劇をつくること自体が、人と人との結びつきを高め、心を癒すものであると考え、社会における表現の有用性を探っている。近作は、劇団劇作家『玄海灘』『短篇集「覧古考新」』（2024年、演出）、壁なき演劇センター『Light on Tennessee Williams』（2023年、作・演出）など。京都芸術大学2024年度劇場実験として、EMMAが代表を務める共同研究が採択を受け、島にフィールドワークへ行くなど創作中。現在、東京藝術大学非常勤講師。日本演出者協会 常務理事。2022年にアーツカウンシルしずおかの「マイクロ・アート・ワーケーション」で静岡市・蒲原地区に滞在。

■公益財団法人静岡県舞台芸術センター（Shizuoka Performing Arts Center: SPAC）



静岡県が設立した公立劇団として、静岡芸術劇場と静岡県舞台芸術公園を拠点に1997年より活動を開始しました。2007年、宮城聡が芸術総監督に就任し、国内外で舞台作品の創造上演するほかにも、教育機関としての公立劇場のあり方を重視し、乳幼児からシニアまで全世代に向けて事業を広げています。

お問い合わせ：SPAC - 静岡県舞台芸術センター

広報担当 佐藤 美咲

TEL：054-208-4008（舞台芸術公園）FAX：054-203-5732 / E-mail：koho@spac.or.jp